

# 『環境モデル都市』 しもかわ



北海道下川町長 安 齋 保

# 下川町の概要



気温： 夏・冬の寒暖の差は60℃  
(夏30℃を超え、冬-30℃を下回る)

降雪の合計： 約10メートル

特徴： 森林面積が90%を占める

面積：644.20km<sup>2</sup>

山林面積：582.77km<sup>2</sup>

人口：3,828人

(2008年10月末現在)



【アイスクヤンドルミュージアム】



下川町出身のスキージャンプ日本代表選手



【イタリア・トリノ五輪会場にて】



# 持続可能な循環型森林経営



毎年50haの植林(適正管理)×60年間  
=3,000haの人工林

森林を継続的に整備しながら資源を循環させ、同時に雇用の場の確保と林産物の供給を継続させる

地域経済への波及  
雇用の創出

- 昭和28年 国有林を取得 1,221ha
- 昭和29年 台風15号(洞爺丸台風)被害
- 昭和35年 40~50haの伐採収穫の経営計画
- 昭和41年 伐採事業を森林組合に委託
- 昭和45年 造林事業を森林組合に委託
- 昭和56年10月 湿雪被害
- 昭和55年から平成2年 林野庁(国有林)と町との分収契約(町が管理し、利益は折半)
- 平成6年から15年国有林取得 1,902ha
- 町有林管理面積 4,470ha  
(人工林:2,890ha、天然林:1,580ha)
- 町有林における森林バイオマスの蓄積 695千m<sup>3</sup>



【大木の伐採(昭和10年頃)】



【現在の間伐作業】



# FSC森林認証

環境・経済・社会に配慮した森林管理の世界的な証

FSC(Forest Stewardship Council、森林管理協議会):本部ドイツ

※ 平成15年8月 北海道で初めて下川町がFSC森林認証取得

- FM(Forest Management)認証林: 6,480ha  
(国有林:503ha、町有林:4,210ha、私有林1,767ha)
- COC(Chain of Custody)認証事業所:町内に7事業体

※FM認証は、森林管理の認証、COC認証は、加工・流通過程の管理認証

- FSC認証製品 住宅材、割り箸など
- 「下川生まれ下川育ちの家づくり」  
(地域材の活用やウッドマイレージを用いた取組み)
- 森林療法の取組み 平成17年6月「しもかわ森林療法協議会」設立



# 木質バイオマスエネルギー活用

下川町地域新エネルギー  
ビジョン策定

地球温暖化対策実行計画  
下川町CO<sub>2</sub>排出量削減計画

公共施設等への木質バイオマス  
ボイラー導入・五味温泉、幼児  
センター、集成材工場

・バイオマスタウン構想公表  
・次世代バイオマス栽培林業



木質バイオマスボイラー



ペレットストーブ



スーパーツリーヤナギ  
見本園(下川町)



【参考】スウェーデンにおける  
ヤナギの収穫作業

# 低炭素社会に向けて

- 森林吸収量を活用した地域経営に関する政策研究会

構成:道内39市町村 平成18年6月 設立

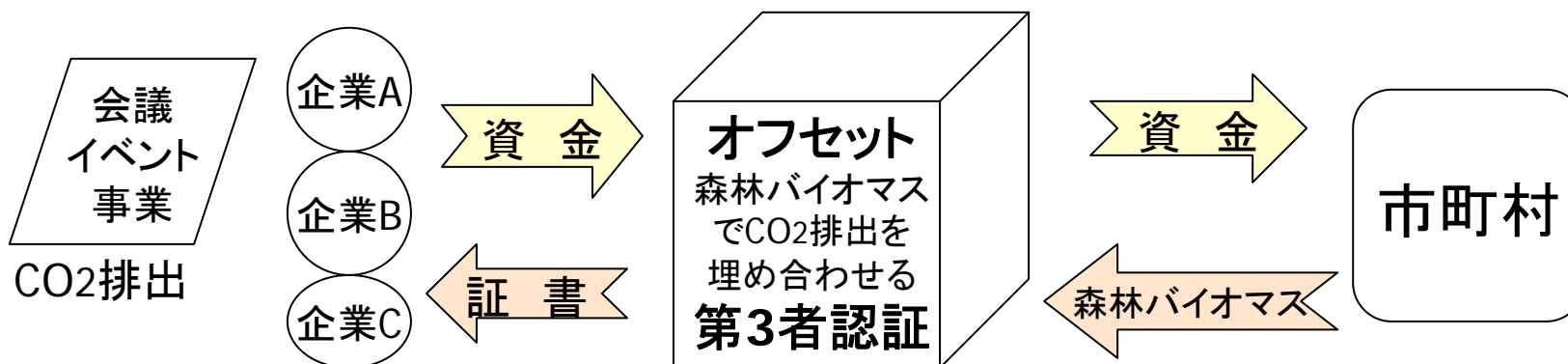
その一部が  
発展

- ・地球温暖化問題への対応
- ・企業の社会的貢献(CSR)の受け皿
- ・国や道に対する政策提言

- 森林バイオマス吸収量活用推進協議会

構成:下川町・美幌町・足寄町・滝上町 平成20年8月13日 設立

## カーボンオフセットの制度設計





# 次世代型 「北の森林共生低炭素モデル社会」 創造

## 地域産業の振興

- 循環型森林経営の推進
- ヤナギ栽培林業推進と新たな産業創造・雇用の確保
- カーボンオフセットによる地域振興と温暖化対策
- バイオマスエネルギーによる地域熱供給システム導入
- 公共施設へのバイオマスボイラー導入
- ゼロカーボン住宅
- 森林バイオマス研究所設置

## 快適な生活環境

- マイバック運動
- 住民参画協働運動
- 二酸化炭素削減コンテスト
- 森林教育、地域間交流、森林体験等
- 民生部門での二酸化炭素削減
- 技術革新 等

## 地球温暖化対策 (1990年と比較して)

長期目標  
CO<sub>2</sub>排出量  
2050年  
66%減  
森林吸収量  
約4.5倍

中期目標  
CO<sub>2</sub>排出量  
2020~30年  
32%減  
森林吸収量  
約3.8倍

# 環境モデル都市 — 次世代型「北の森林共生低炭素モデル社会」創造プロジェクト —

